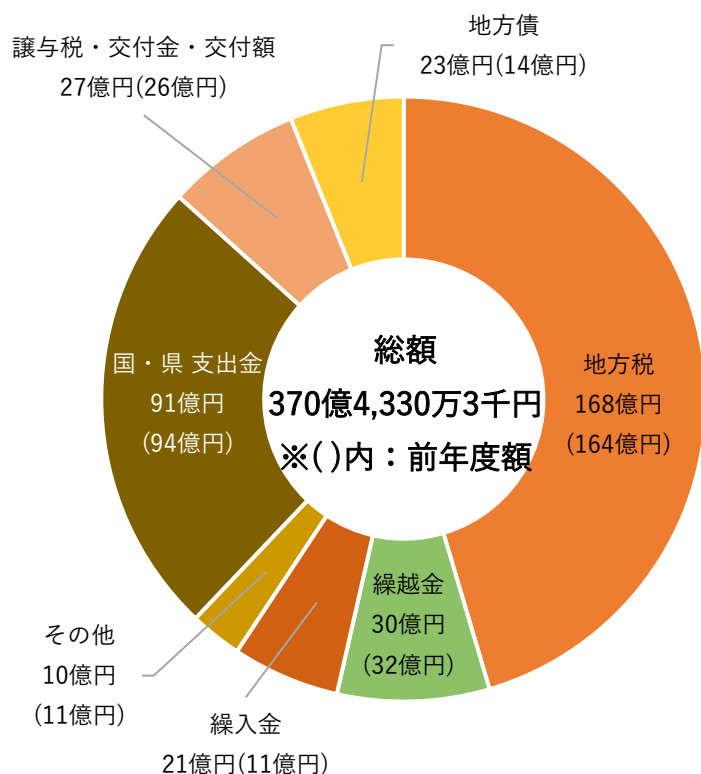


● 和光市にはどのようなお金が入ってくるのでしょうか？



※「和光市のお財布」は普通会計（一般会計と駅北口特別会計が該当）で作成しています。
※各項目は億円未満を四捨五入しているため、合計と総額が一致しない場合があります。

自主財源

地方税

市民の皆さんや市内の会社が納める税金など

繰越金

前年度から繰り越すお金

繰入金

基金（市の貯金）を取り崩したお金

その他

市の施設を利用した際の使用料、証書発行手数料や寄付金など、市が自主的に集められるお金

依存財源

国県支出金

国や県からの補助金や負担金で、主に子ども子育てや福祉、建設事業のために交付されるお金

譲与税・交付税・交付金

国や県から配分されるお金

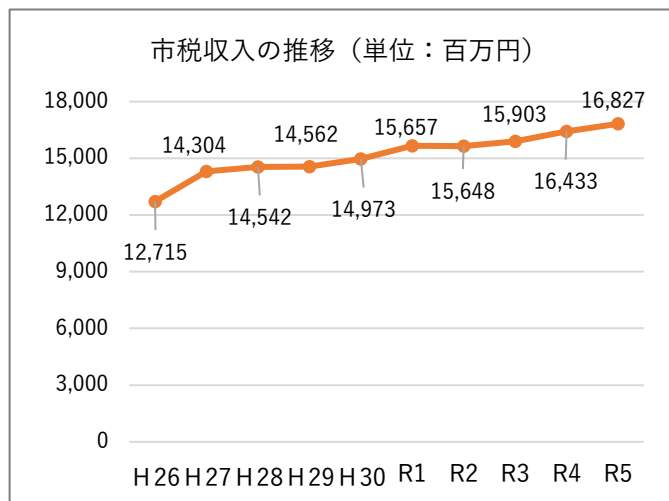
地方債

国や銀行などから借入るお金（借金）

● 地方税

地方税は市民税（個人・法人）、固定資産税、軽自動車税、市たばこ税、都市計画税の総額で、歳入に占める割合は45.4%になります。

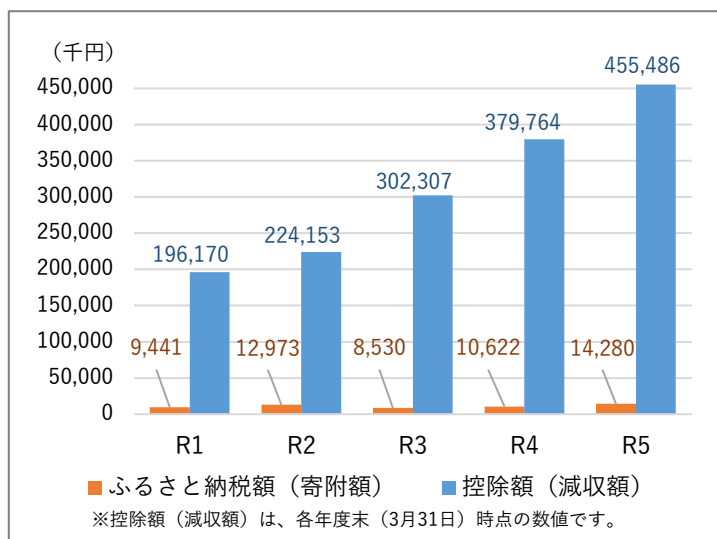
地方税の推移については、毎年増加傾向にあり、個人市民税の納税義務者数の増加や、雇用状況・所得環境の改善によって個人所得が上向いたこと、固定資産税の商業地等に対する課税標準額上昇緩和措置が終了したことなどから、令和5年度は約4億円増加しました。



● ふるさと納税

ふるさと納税とは、任意の自治体に対して納税（寄附）を行うと、納税額が2,000円を超えた分の住民税や所得税が控除される制度です（控除上限額は納税額により異なります）。

和光市では、平成24年4月から「和光市まちづくり寄附条例」に基づき「和光市まちづくり寄附金制度」を開始しています。以下のグラフは、当市への納税額（寄附額）と控除額（減収額）の推移を示しており、市民税の減収額が毎年増加しています。



● 和光市ではどのようにお金が使われているのでしょうか？

主な経費

人件費

職員や市議会議員等の給料など

扶助費

保育園の運営委託料や障害福祉サービスなど

公債費

国や銀行に借りたお金の返済、普通建設事業費、道路や公園、学校など、施設の整備に使われるお金 ※今後も、都市基盤整備や公共施設の老朽化対策などにより増加が見込まれます。

その他の経費

繰出金

特定の事業を行う特別会計に対して、収入を補うためのお金

物件費及び維持補修費

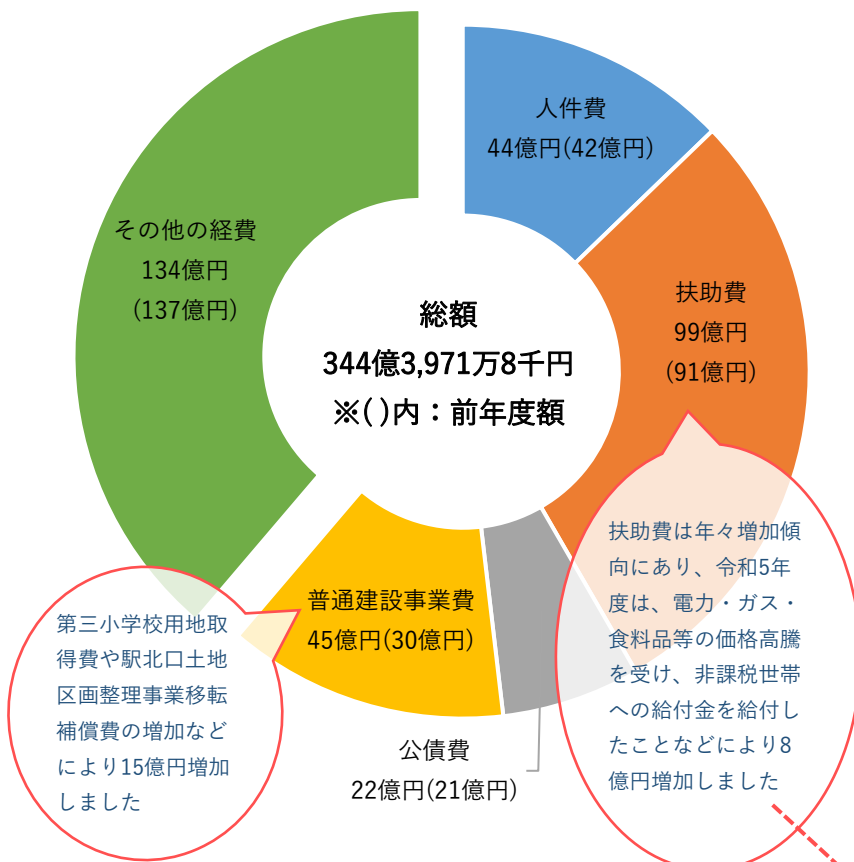
施設の管理に係る経費(光熱費、修繕費など)

補助費等

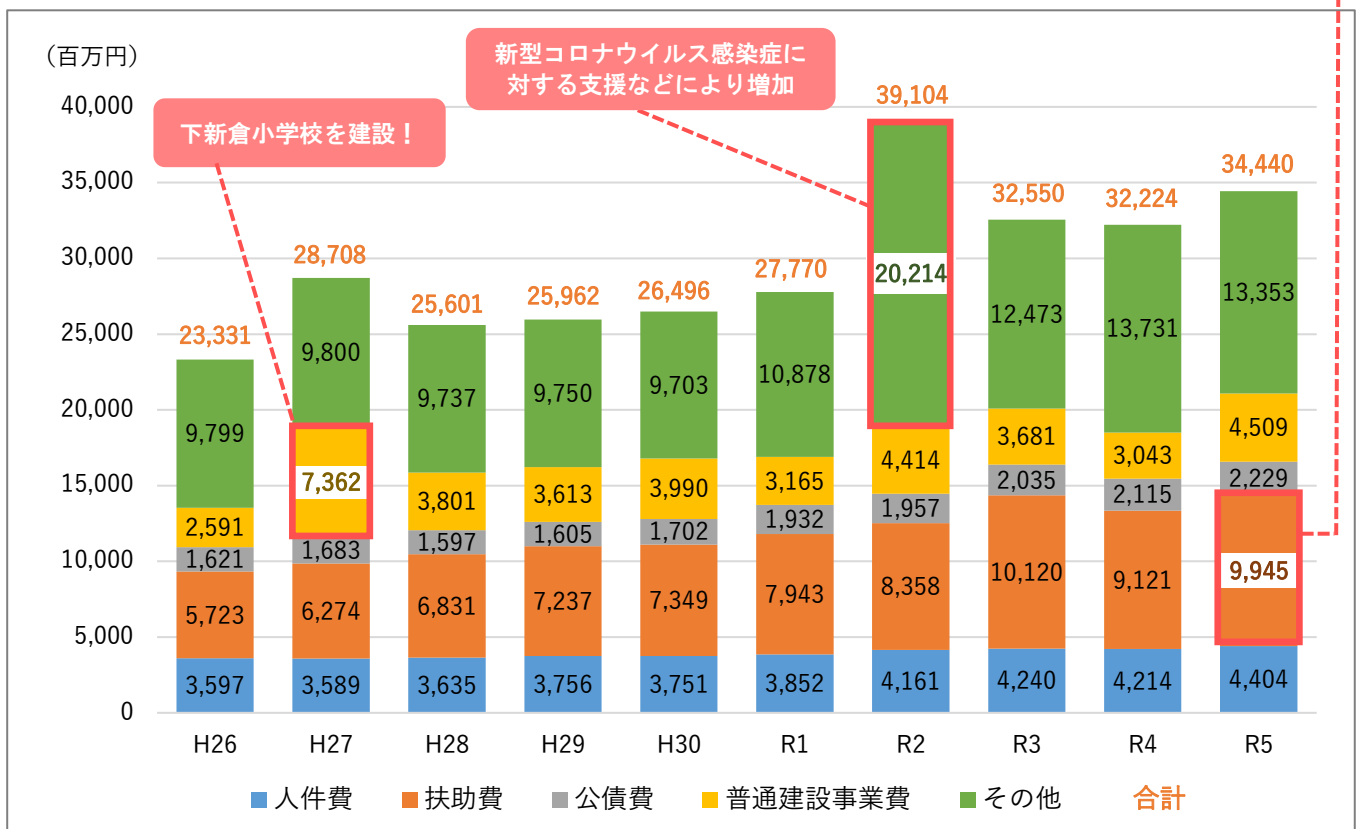
一部事務組合等への負担金、市民団体や保育園への補助金など

積立金

市のために貯めるお金(貯金)



● 歳出総額の推移（普通会計決算・性質別）

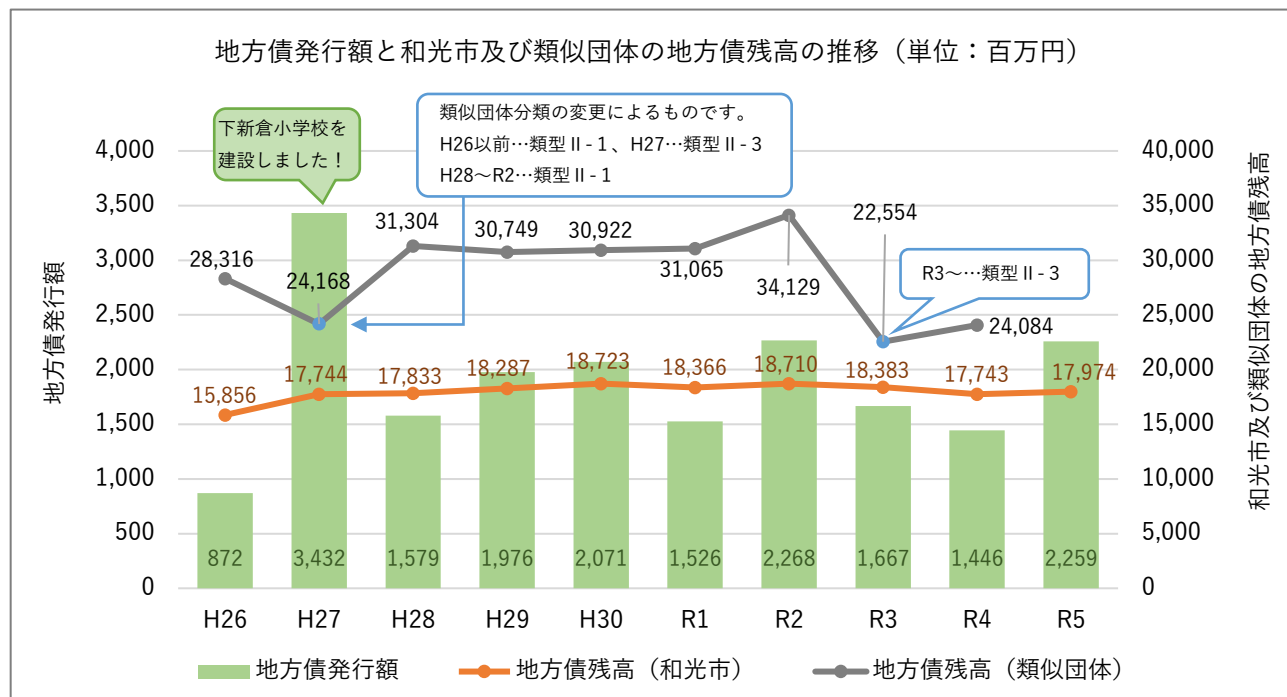


市の借金や貯金について

● 和光市の借金はどれくらいあるのでしょうか？

市の借金について、類似団体(※)と比べるといずれの年度も下回っていますが、今後も都市基盤整備や公共施設の老朽化対策などにより、借金は増加することが見込まれます。

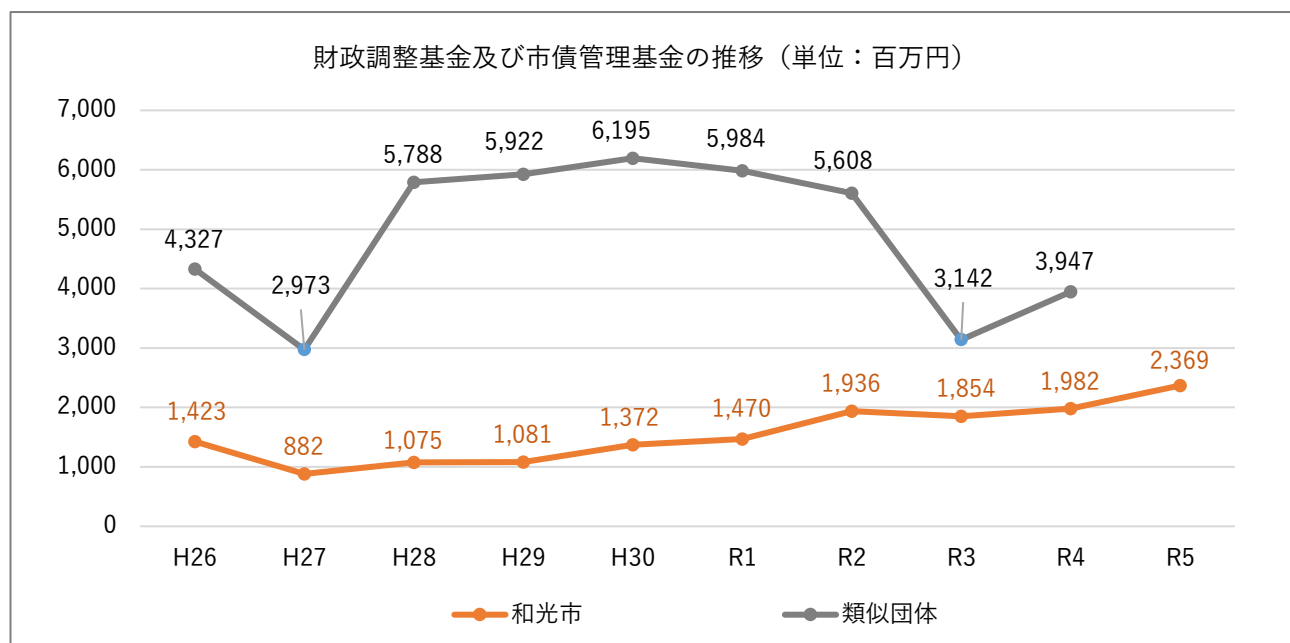
(※総務省自治財政局財務調査課が人口と産業構造の組み合わせによって自治体を類型化したものです。)



● 和光市の貯金はどれくらいあるのでしょうか？

財政調整基金は、財源が足りなくなったときに取り崩したり、財源に余剰が生じたときに積み立てることで財源の調整を行うための貯金で、市債管理基金は、借金の返済を計画的に行うために積み立てる貯金となります。この2つの合計額について、類似団体と比べるといずれの年度も下回っている状況にあります。

なお、財政調整基金以外にも、公共施設の整備や市内のまちづくりなど、特定の目的に使うために積み立てている特定目的基金もあります。



身近なサービスにかかった費用の一部を紹介します！



子育て

保育園

保育園は、保護者の方から頂く保育料と、国・県・市の支出により運営が行われています。

令和5年度末において、公立・私立保育園、認定こども園、小規模保育事業所等合わせて46園あります。令和5年度は、しらこ保育園の空調機改修や、ゆめの木保育園の認定こども園化に向けた整備を行ったことにより、市の負担額が増加しています。

市の負担額	15億7,147万8千円
市民一人当たり	18,547円
	(前年度 16,107円)

乳幼児・子ども医療費

和光市では、子どもの保健の向上と福祉の増進を図るため、中学校終了までの通院及び入院にかかる医療費の一部を助成しています。

子育て中の家庭を支援し、子どもの健全な発達を支援することを目的としています。

市の負担額	3億6,420万5千円
市民一人当たり	4,299円
	(前年度 3,686円)



交通

市内循環バスの運行

市内循環バスは、公共交通不便地区の解消と高齢の方の生活の足を確保することを目的として運行しています。

令和5年度は、運行ルートの見直しを行い、年間乗車人員は155,366人となり、1日平均432人の方々にご利用いただいています。

市の負担額	6,194万7千円
市民一人当たり	399円
	(前年度 566円)



環境

ごみ処理・リサイクルなど

市民の皆さまに分別いただいた資源などは、様々な工場で処理され、新たな製品を作るための材料となります。

ごみを燃やした後の灰は、リサイクルされるものと埋め立てられるものがあります。

和光市では、リサイクル量を増やし、最終処分場での埋め立て量の削減に努めています。

また、安定的かつ効率的なごみ広域処理体制の構築を目指し、朝霞和光資源循環組合への負担金を支払っています。

市の負担額	12億3,285万1千円
市民一人当たり	14,551円
	(前年度 14,790円)



※「和光市のお財布」は、財政に興味を持っていただくために作成しました。
より詳細な内容については、「財政白書」をぜひご覧ください！

⇒こちらから：<https://www.city.wako.lg.jp/shisei/zaisei/1009422.html>